

ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2018 参加者アンケート結果

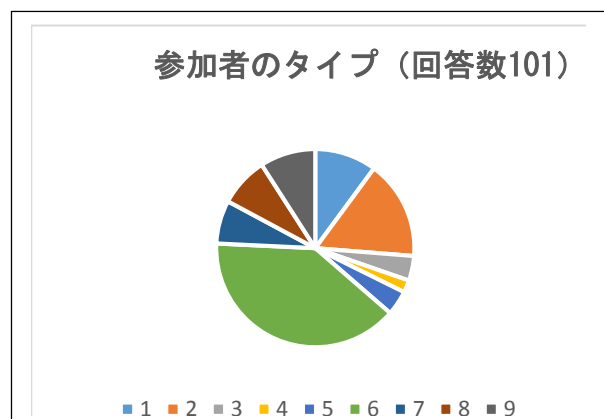
平成 30 年度全国フォーラム参加者アンケートは、アンケート回答数が 101 となり、回収率が約 40%であった。

ご自身について

参加者のタイプとしては、NGO/NPO・公益法人が 39%と多く、学校教育関係者（16%）、民・住民・一般（10%）などが続いている。

問 1. 立場（単一回答）：回答数 101 名

- 1 市民・住民・一般 10 名（10 %）
- 2 学校教育関係者 16 名（16 %）
- 3 大学・研究機関 4 名（4 %）
- 4 社会教育関係者 2 名（2 %）
- 5 企業・事業者 4 名（4 %）
- 6 NGO/NPO・公益法人 39 名（39 %）
- 7 地方公共団体 7 名（8 %）
- 8 ユース 8 名（8 %）
- 9 その他 9 名（国 5 名、独立行政性法人 1 名、地方センター2 名、地域おこし協力隊 1 名）

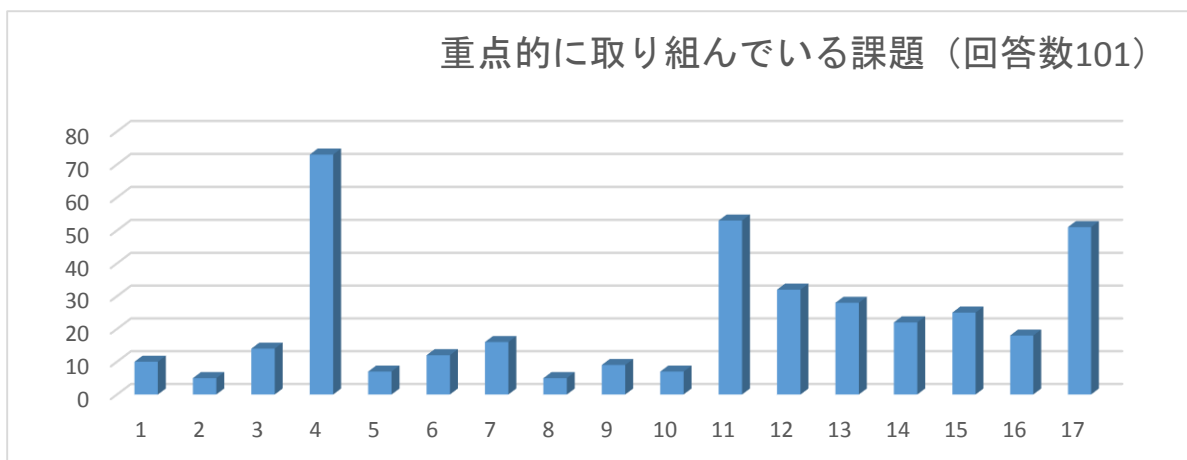


問 2. 重点的に取り組んでいる課題（複数回答可）：回答数 101 名

SDGs の 17 の目標に関し、重点的に取り組んでいる課題としては、「目標 4 質の高い教育」が最も多く、73 団体（72%）が取り組んでいる。その他では、「目標 11 持続可能なまちづくり」（52%）、「目標 17 目標達成に向けたパートナーシップ」（50%）などが上位を占めている。

- 目標 1 貧困をなくす 10
- 目標 2 飢餓をなくす 5
- 目標 3 健康と福祉 14
- 目標 4 質の高い教育 73
- 目標 5 ジェンダー平等 7
- 目標 6 水と衛生 12
- 目標 7 誰もが使えるクリーンエネルギー 16
- 目標 8 デイリーセントワークと経済成長 5

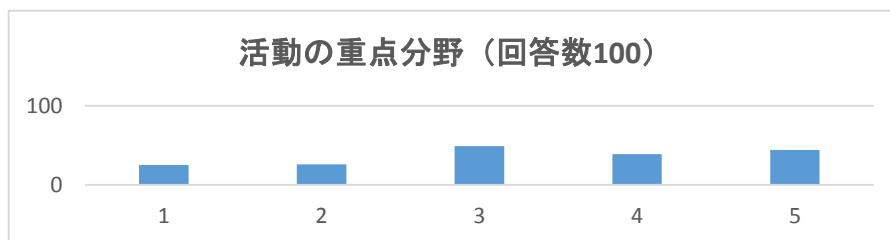
- 目標 9 産業・技術革新・社会基盤 9
- 目標 10 格差の是正 7
- 目標 11 持続可能なまちづくり 53
- 目標 12 持続可能な消費と生産 32
- 目標 13 気候変動へのアクション 28
- 目標 14 海洋資源 22
- 目標 15 陸上資源 25
- 目標 16 平和・正義・有効な制度 18
- 目標 17 目標達成に向けたパートナーシップ 51



問3. 活動の重点（複数回答可）：回答数 100名

グローバルアクションプログラムの優先活動分野に関しては、**教育者の育成（49%）、地域コミュニティ（44%）、若者の参加支援（39%）が多い。**

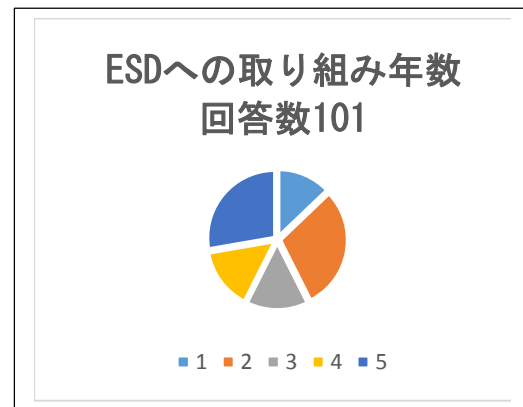
- 1 ESD に対する政策的支援（ESD に関する政策提言を含む） 25（25 %）
- 2 ESD への包括的取組（ESD 推進に向けた組織の方針の明示を含む） 26（26 %）
- 3 ESD を実践する教育者の育成（学校教育・社会教育、企業研修等を含む） 49（49 %）
- 4 ESD への若者の参加の支援（若者による ESD の推進を含む） 39（39 %）
- 5 ESD への地域コミュニティの参加の促進（地域コミュニティにおける ESD 活動等） 44（44 %）



問4. ESD への取組年数（単一回答）：回答数 101名

ESD への取組年数については、取り組んでから3年未満という比較的新しい者と10年以上のベテランの参加が多い。

1	これから取り組む	13	(13%)
2	3年未満	30	(30%)
3	3年～5年	15	(15%)
4	6年～10年	15	(16%)
5	10年以上	28	(28%)



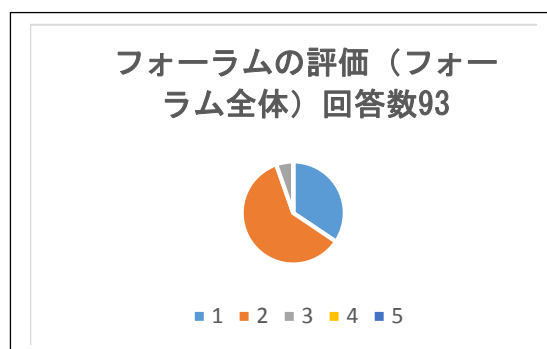
フォーラムの内容について

問5. フォーラム全体（単一回答）：回答数 93名

全国フォーラム全体の評価としては、「大変よかった」、「よかった」を合わせると94%になり、大変高い評価を得ることができた。

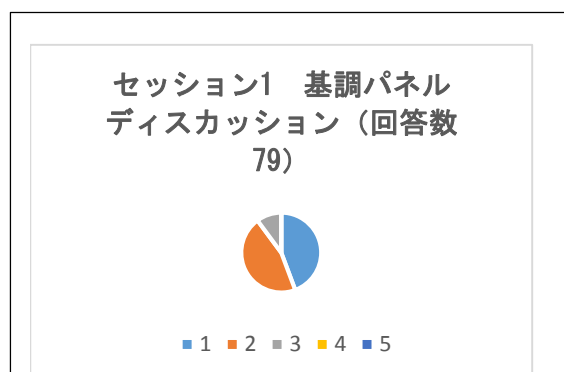
各セッションについても「大変よかった」、「よかった」を合わせて73～90%という高い評価が得られた。なお、セッション3については、全体として高い評価であったが、厳しい評価も散見された。これは、今回は「消費者の賢い選択」という特定テーマに関する討議で会ったことに対し、省庁参加した省庁の施策全般について聞いたかったという期待感を持った参加者もいたことが一因と考えられる。

1	たいへんよかった	32	(34%)
2	よかった	56	(60%)
3	ふつう	5	(5%)
4	あまりよくなかった	0	(0%)
5	よくなかった	0	(0%)



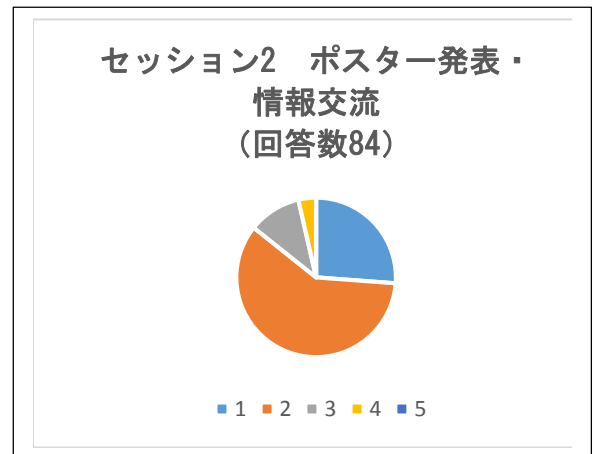
問6. セッション1：基調パネルディスカッション（単一回答）：回答数 79名

1	たいへんよかった	35	(44%)
2	よかった	36	(46%)
3	ふつう	8	(10%)
4	あまりよくなかった	0	(0%)
5	よくなかった	0	(0%)



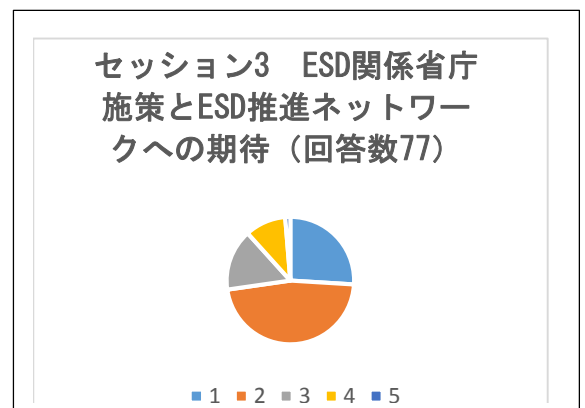
問7. セッション2：ポスター発表・情報交流セッション（単一回答）：回答数 84名

- 1 たいへんよかった 22 (26%)
- 2 よかった 50 (60%)
- 3 ふつう 9 (11%)
- 4 あまりよくなかった 3 (4%)
- 5 よくなかった 0 (0%)



問8. セッション3：ESD関係省庁施策とESD推進ネットワークへの期待（単一回答）：回答数 77名

- 1 たいへんよかった 20 (26%)
- 2 よかった 36 (47%)
- 3 ふつう 12 (16%)
- 4 あまりよくなかった 8 (10%)
- 5 よくなかった 1 (1%)



セッション4：分科会 73名

問9. 分科会1：学校と地域ですすめるESD（単一回答）：回答数 26名

- たいへんよかった 11
- よかった 14
- ふつう 1
- あまりよくなかった 0
- よくなかった 0

問10. 分科会2：自然災害に備える人づくり（単一回答）：回答数 7名

- たいへんよかった 2
- よかった 4
- ふつう 1
- あまりよくなかった 0
- よくなかった 0

問11. 分科会3：地域と「国際」をつなぐESD（単一回答）：回答数 8名

- たいへんよかった 3
- よかった 5
- ふつう 0

あまりよくなかった 0
よくなかった 0

問 12. 分科会 4 : ユースの関わり、ユースの巻き込み (単一回答) : 回答数 13 名

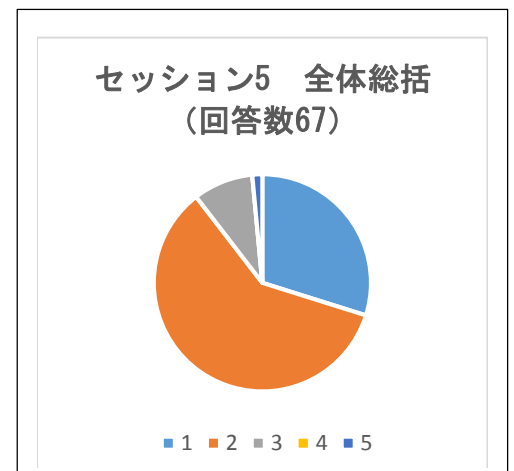
たいへんよかった 6
よかった 7
ふつう 0
あまりよくなかった 0
よくなかった 0

問 13. 分科会 5 : 体験活動を提供する施設の ESD (単一回答) : 回答数 14 名

たいへんよかった 7
よかった 6
ふつう 1
あまりよくなかった 0
よくなかった 0

問 14. セッション 5 : 全体総括 (単一回答) : 回答数 67

1 たいへんよかった 20 (30%)
2 よかった 40 (60%)
3 ふつう 6 (9%)
4 あまりよくなかった 0 (0%)
5 よくなかった 1 (2%)

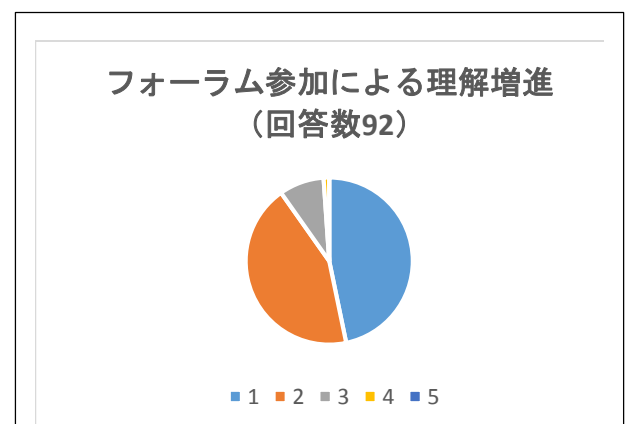


本日のフォーラム参加の成果

問 15. フォーラムに参加したことにより、ESD に関する理解が進んだ (単一回答) :

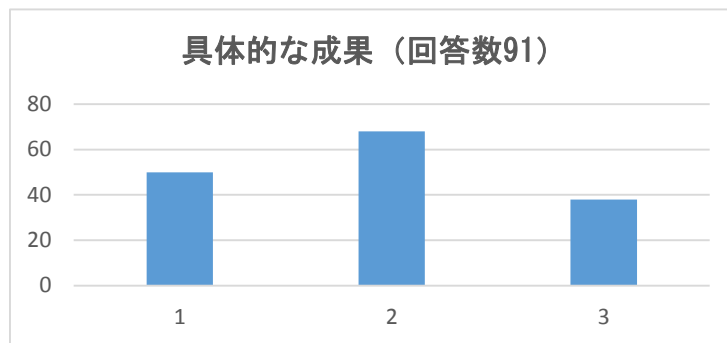
回答数 92 名

1 おおいにそう思う 43 (47%)
2 そう思う 40 (43%)
3 ふつう 8 (9%)
4 あまりそう思わない 1 (1%)
5 全くそう思わない 0 (0%)



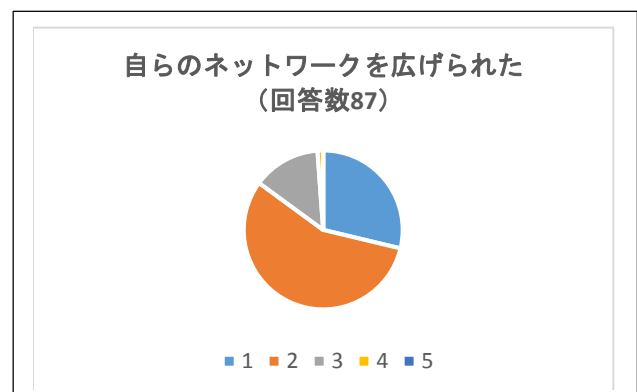
問 16. 具体的にはどのようなことでしょうか。(複数回答可) : 回答数 91 名

- 1 ESD 推進ネットワーク、ESD 活動支援センター(全国・地方)、又は地域 ESD 活動推進拠点(地域 ESD 拠点)に関する理解が進んだ 50 (55%)
 - 2 ESD に関する事例を学べた 68 (75%)
 - 3 SDGs 等、ESD に関連する事項の理解が進んだ 38 (42%)
- その他(懇親会で多くの人と知り合うことができた。ESD に関心がある関係者が多様になっていることが分かった)



問 17. 全国フォーラムに参加したことにより、自らの ESD ネットワークを広げることができた(単一回答) : 回答数 87 名

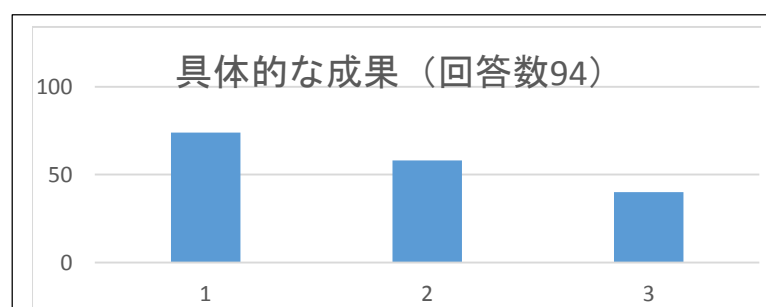
- 1 おおいにそう思う 25 (29%)
- 2 そう思う 49 (56%)
- 3 ふつう 12 (14%)
- 4 ESDあまりそう思わない 1 (1%)
- 5 全くそう思わない 0 (0%)



問 18. 具体的にはどのようなことでしょうか。該当するところに○をお付けください(複数回答可) : 回答数 94 名

- 1 ESD に関わる人たちとの交流ができた 74 (79%)
- 2 ESD に関わる人たちを新たに知ることができた 58 (62%)
- 3 ESD を広めるための情報・機会が得られた 40 (43%)

その他(地方のひと話すことができ参加して良かった。自らの知り合い同士のマッチングもできたので、それも間接的に自らの ESD ネットワークの広がりにつながるものと思う。)



自由記述

1. 今後の全国フォーラム及び ESD 活動支援センター（全国・地方）にどのようなことを期待しますか。

（普及啓発）

- ・引き続き普及活動、啓蒙活動を通じて一般人に浸透するよう指導、支援いただきたい。
- ・全国小中高等学校の校長会においても ESD の啓発活動を紹介していただき、ESD 活動支援センターの認知度を上げてもらいたい。
- ・このようなフォーラムの開催
- ・ESD にかかわる団体関係者だけでなく、一般市民の中でそのような活動に関わる（たとえ ESD、SDGs という言葉自体を知らなくとも）人が増えていくようにしてほしい。
- ・マスメディアへのアピール支援
- ・ESD 活動拠点の必要性、メリット、活動状況などについてウェブサイト等を活用し情報発信してほしい。
- ・学校教育にもっと広めてほしい。

（情報提供）

- ・ESD についての情報の交通整理、ESD にかかわる組織や制度が（多様というより）乱立している中で各主体の位置づけや情報の流れを整理すること
- ・多様な活動主体や指導者の情報提供
- ・情報提供や事例発表をたくさん行ってほしい。
- ・ESD 拠点を つくることは手段にすぎないので、数値よりも中身の事例を多く発信してほしい。
- ・地方の情報の吸い上げ→データベース化など
- ・熱心に活動を行っている人々の交通整理
- ・地域の ESD 活動は、地球規模課題とのリンクが不可欠であることから、国際的な課題と地域の取組をつなぐこと（情報の提供等）をもっと期待したい。
- ・ESD の Global Dimension の普及 “think globally, act locally” locally に偏りすぎるとガラパゴス化に陥る可能性がある。

（ハブ機能）

- ・ESD 推進のハブとなること
- ・横のつながり、情報共有のかけはしを期待します。
- ・地域から持続可能な社会を創造するため 多様な主体を結びつける核としての役割を期待。
- ・地域ネットワーク構築に向けてハブとしての更なる活躍を期待します。
- ・人をつなげる仕事に今後も尽力いただきたい。

(重点活動)

- ・全国拠点で共通して取り組むテーマを設定したらどうか
- ・ネットワークの広がりのための研修等（特に地方での）
- ・地方自治体をもろに巻き込んだ、現場の方に焦点をあてた活動に焦点を当てること
- ・自治体と地域・企業との連携サポート
- ・ネットワークが有効活用された例を具体的に示してそれぞれがネットワークをつくって参加して活用できる仕組みをつくっていただければと思います。
- ・災害の際などの窓口やハブ機能、ブロックの受け入れなどに期待。
- ・SDGs 等活動を広めるためのサポート
- ・オルタナティブ・スクールの開校に向けての支援
- ・地方センターの独自フォーラムを多くしてほしい。
- ・長期的だけでなく短期的にも見える成果
- ・情報の共有、SDGs のプラットフォームとしての支援。ZOOM など ICT を使った地方の自己組織化を促す仕組みづくり。協働で行うイベントや資金、補助金、マンパワー情報。
- ・ESD 関連の機関、団体が様々誕生して有益情報の精査が難しくなっている。また、地方センターがマニユアックな”おらがふるさと”知識人の生き甲斐提供に偏しないよう望む。学校（独特の文化を持つ）との連携ノウハウ開発も大きな役割。一方センターが環境省のプロジェクト予算であるだけに今後の安定的・持続的活動の保証担保が見えない。また、相談機能の強化、拡充を図るうえでセンター職員の専門性の充実が望まれる。
- ・ESD 活動のみならず、地域のまちづくり活動全般を含んだ中間支援機能及び空間の充実（人、モノ、資金）
- ・国内実施計画後の展開についてのロードマップに関する政策提案。GAP ならびに国内実施計画、ESD 推進ネットワークについての検証の場づくり。
- ・ユース同士が交流できる機会

(全国フォーラムへの提言)

- ・各発表者の発表時間が押していたので、もう少し余裕を持たせてもいいのでは？
- ・金土の開催だと教員の参加は難しい。土曜日のプログラムの更なる充実を期待します。
- ・学生・若者の発表やポスターセッションがあると面白いと思います。出られなかった講演も動画などでアクセスできると有難いです。
- ・地方での全国フォーラム開催、地方センター所在地以外での活動の展開
- ・＜全国フォーラム＞十分な人員体制に基づき、ロジ運営については専門の業者による支えがある上での、多様な活動領域を持つ地域 ESD 拠点を活かした、多分野における学習機会の創出。現場で ESD に取り組んでいる実践主体への相談機会の提供と地域 ESD 拠点とのマッチング。
- ・全国フォーラムの規模（参加者等）の拡大（「風呂敷」に見合った規模に）
- ・プレスリリース等全国フォーラムの広報

(その他)

- ・有難うございました。
- ・多くの示唆を受け、新たな力が湧きました。
- ・意義ある活動をされていると思います。今後も期待しています。
- ・静岡県にいますが、地方センターは実質遠いです。
- ・1年1回皆さんに会えること

ESD 推進ネットワークをはじめとする ESD 全般について、自由にご意見をお書きください。

(全般)

- ・一組織で ESD 活動をすべてカバーすることは非常に困難であり、それぞれの組織の強みを生かして課題を絞って取り組むことが大事。
- ・いつまでに何をするか？目標を常に拠点メンバーにも共有、確認が必要と感じた。
- ・日本らしい ESD の推進に取り組むべきだと思います。
- ・教育全体の中で受験に必要となるような「学力」との関わりを考えることが大切だと感じています。ESD のような本質的な学びをしていくことが子供たちにとっての明るい未来、そして持続可能な社会につながっていくというような考え方が広まっていくといいなと思います。(ESD 推進の障害になっている面があるのではないかと感じています。) 有り難うございました。
- ・ESD は、SDGs とのつながりを得て発展期になっているので風をつかむことが大切。一緒に頑張りましょう。
- ・ESD の取り組みが着実に前の方へ進んでいると感じました。
- ・ESD 推進ネットワークの広がりや深まりを通して、地域の人々のモチベーションをあげることが求められるのではないのでしょうか。よりよいまちづくりのために「自分に何かできないか！」とと思っている人々をつなぐネットワークづくりが必要だと思います。
- ・これからの活動に向けた目標設定の枠組みができたこと。これらを、生活の中でどのように取り組むことができるのか、わが事として取り組めるような機運、危機感の醸成が求められる。
- ・ESD の主流化 すすめたいところです。
- ・SDGs にせよ ESD にせよ玉虫色の言葉と概念という考えが強くあったが、今回のフォーラムを通じて、人と人をつなぐなどの良い面を引き出せるかは、自分も含め関わる人々の行動次第なのだと思うようになりました。

(普及啓発)

- ・ESD における成果をもっとわかりやすく伝えていかないとあまり意味がないのではと思いました。ESD は数年前からあまり活動が変わっていないような感じを受けます(勉強不足かもしれませんが)。
- ・ESD に関する自治体の理解度、施策として十分でないため、推進していくように連携してほしい。
- ・まだまだ地域の活動に ESD といえないところがあります。少しずつ言葉にしていますが、勇気

を出して行動して見ます。

(情報提供)

- ESD と SDGs の関係を改めて理解したいと思いました。
- 全国レベルでの発信を関係省庁を中心に行ってくれると地域 ESD 拠点として行動をしやすい。
- ESD をもっと簡単にわかりやすく説明する資料が必要。
- 子供でもできるチェックシート、QA、クイズ等の配布（分野ごとが良い）
- SDGs のひとつ、ESD という理解の推進で良いでしょうか？地方では知っている人が本当に少ないのです。
- オンライン ESD 教材などが充実すると助かります。

(重点活動)

- 拠点の力 支援
- 10 年前の ESD スタート時の弘前大会では日本の縄文時代からの生活スタイル、神社、里山の歴史・文化を見直そうと言う話があったことをもう一度世界へ広報してほしい（地上資源、生活社会）

(その他)

- 2 日目に参加できず申し訳ございません。残念です。
- ロジ部分に不手際が多い印象でした（PC、司会の進め方等）。早口で良く聞こえない。
- 時間、特に終了時刻を守っていただかないと参加が持続不可能になります。全体総括は、ほぼ全員がダラダラしゃべりすぎ（思いはわかるけど）。
- 分科会では、各グループにユースファシリテーターが配置され、スムーズな進行でした。入念な準備と日頃から培ったチームワークの良さを窺い知ることができ、頼もしく思いました。慣れているとなあなあになりがちですが、分科会では本来、ファシリテーターと話題提供者、グループファシリテーターがこれくらい綿密に準備し、行うべきと、シニア世代が企画する他の分科会への期待と、自省の念を込めて感じました。ありがとうございました。
- 東京だけでなく、地方でも全国フォーラムを開催してほしい。
- 大変貴重な機会になりました。有難うございました。
- 基調パネルはそれぞれの人から貴重なお話を伺えて有意義でした。
- とても良い時間を過ごさせていただきました。有難うございました。
- MEXT の対応（専門的助言機能）の劣化が顕著であったことから、今後は NPO、民間企業（CSR）、ユースが横串でつながるビジョン、具体化の戦略をネットワーク及びその司令塔（？）が担えられるかが大事なポイント。国際戦略としての SDGs がユネスコスクール等の実践部隊が”ガラパゴス化”（指導要領改訂もこれを促進）しつつあることに懸念を抱く。MEXT（国際統括官）、ACCU はじめ国際舞台で活動する機関の役割がこの点を強く認識して欲しい。